

泉北教組臨時大会

2月18日(火) 和泉コミュニティセンターにおいて泉北教組臨時大会が開催され、14年度役員を下記のように決定しました。今年度の大会も女性部との共催という形で行われました。お忙しい中参加いただいた組合員のみなさんに感謝いたします。

冒頭の井谷委員長のあいさつではまず、昨年度の危惧の声の中で与党が強硬に成立させた「特定秘密保護法」についての話でした。泉北教育1949号でも紹介した戦前の北大生の受難の話を受け、法の即時廃案を求める運動を進めていくことを訴えました。

次に、ねばり強い交渉の中で、ようやく人勧が給与に反映されたこと。更に給与カットの延長という府当局からの圧力に對しても、カット率の縮小という形で押し返すことのできた、府労組連の取り組みについての話がありました。

シリーズ「人権教育Q&A」④

このシリーズは、大阪教育文化センターが発行した「輝け子どもたち」2013年版からの転載です。

Q7 インターネットに差別的な記事があります。どう考えればよいでしょうか。

A7 部落差別はもはや社会で受け入れられません。

府教委などは、部落問題が解決していない根拠に、インターネットの記述をあげます。

誰が書いたかわからない落書きと同じようにインターネットにも書き込む輩がいるようです。しかし、その様な書き込みが社会で受け入れられているわけではありません。現実の社会では部落問題についての無責任な言動は受け入れられません。犯罪につながるものは現行法でも対応することは可能です。法務

局など人権擁護機関も対応しています。

「ヘイトスピーチ」のように差別や憎悪をあおる現実があります。教員や公務員、生活保護受給者もバッシングされています。

人を攻撃することで自らの得点を稼ごうとしてきたのは、誰でしょうか。教育改革が必要といい、現場の教員の質が問題であるように描き、不信と不満を煽ってきたのは権力者の側であり、一部のマスコミも手を貸してきました。

インターネット上の匿名で個人が調子にのって差別や憎悪を記述することは道義的に許されませんが、権力者たちが煽ってきた風潮の中で生まれた問題を学校現場に押しつけるのでは問題の解決につながるはずがありません。時の権力者たちが国民同士や公務員・教員への不信をおおっているもどで、私たちは、子どもたちを真ん中に保護者や地域住民と手をつなぐ実践を通じて、信頼と協力の輪を広げていくことの大切さを確認したいと思えます。



「経過報告と当面するたたかい」で、片上書記長より、「①久々に勝ち取ることができた賃上げについて②13年度泉北教組が取り組んだ教研について③和泉市の小中一貫教育の問題④子どもと教育にとってよりよい環境を求めるために組合員拡大を」という4点について話がありました。

「女性部長あいさつと提案」では米澤部長より「講師の不足が問題となってきたことに触れ、安心して子育てのできる職場作り」が訴えられました。また「国際女性デー」の紹介や元泉北教組組合員の渡辺真理子先生の本の紹介がありました。

大会参加者からの発言

役員・執行委員選挙結果

大教組 中央委員	執行委員			会計 監査	書記 長	副執行委員長			執行委員長	役職
	忠岡地区	高石地区	和泉地区			西川	片上	松下		
原田 里美	井谷 武志	宇野 悠樹	岡沢 文彦	平谷 計二	堀崎 光人	佐々木 守	竹中 道代	原田 里美	光明台北小	氏名
光明台北小	光明台中	東忠岡小	取石 中	青葉はつが野小	石尾 中	南池田小	石尾 中	光明台北小	清高小	学校名

では、「①学校環境についての現場からの要望が反映しない、そのような中での中一貫校の計画について心配」しているという声

「②組合に入った原点と母親運動について」

「③青年部の活動と大教組青年フェスタについて」

「④職場での校長との交渉と人勧の前進について」

「⑤新任の頃の職場の様子や執行委員をして感じたことなど」の5名の発言がありました。大会終了後、青年部大会が行われました。